

【水の里の旅コンテスト 2022 応募企画】

【一般部門】

NPO 法人 土湯温泉観光協会

『秘湯「幕川」への旅 ～水質日本一「荒川」の源流「幕滝」と秘湯温泉を楽しむ～』

(観光地域：福島県 福島市土湯温泉)

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	夏・秋(実施時期： 8月20日、21日)		
【催行人員】	20名(最小催行人員：10名)	【お勧めする旅行者層】	アドベンチャー指向性の方々
【旅行代金】	40,000円 (大人1名)	【代金内訳】	宿泊費13,350円 体験料8,000円 二次送迎費4,785円 保険料150円 諸経費13,715円
【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
①荒川の源流域である幕滝のダイナミックな自然景観と冷涼感 ②秘湯感満載の温泉「幕川温泉」での白濁した硫黄泉での入浴と夕膳 ③伝統工芸であるこけしの歴史と土湯こけし絵づけ体験 ④荒川沿いにある土湯温泉源泉域での地熱発電と発電後の冷却水と温泉熱で養殖したエビのエビ釣り体験と食			
【インバウンド対応のための工夫】			
①Wi-Fi環境整備 ②最低限の英語表記のパンフレット			
【催行実績】	有：8月 ※募集ホームページアドレス： https://www.tcy.jp/		

【 行 程 表 】

<p>1日目</p>	<p>13:00 JR福島駅西口集合（送迎バスご利用の方のみ） （土湯温泉移動）</p> <p>13:45 観光交流センター湯愛舞台到着（自家用車の方） 受付後に2日間の予定等をご説明</p> <p>14:00 こけし絵づけ体験・こけしのお話し</p> <p>15:40 絵づけ体験終了 （幕川温泉移動 送迎バスで移動）</p> <p>16:30 幕川温泉宿泊旅館 水戸屋旅館・吉倉屋旅館到着（1日目解散）</p>
<p>2日目</p>	<p>9:00 水戸屋旅館前集合・幕滝トレッキング開始 ガイド：チャンルスクエア</p> <p>11:15 幕川温泉出発 （土湯温泉街移動 送迎バスで移動）</p> <p>12:00 土湯温泉到着フリー 入浴、昼食、温泉街散策</p> <p>下記①②を2班(各10名程度)で交代体験</p> <p>13:00 ①土湯共同源泉、バイナリー発電、オニテナガエビ養殖場見学 ～14:30</p> <p>14:45 ②おららのコミセエビ釣り体験 ～15:45</p> <p>16:30 土湯温泉出発（自家用車でお越しの方は記入後ここで解散）</p> <p>17:00 JR福島駅西口到着（解散）</p>

【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など）】

<p>ポイント1</p>		<p>【コメント】</p> <p>高さ30mから舞台の幕のように水が降り注ぐことから幕滝と命名された。福島市荒川の源流に位置し、清流の源である。滝壺に光が差し込むと虹が出現し、ハイカーが歓喜する一瞬でもある。標高1400m付近にあり、夏は涼しく、近くにある秘湯幕川温泉は避暑地として多くの市民から愛されている。</p>
<p>ポイント2</p>		<p>【コメント】</p> <p>土湯温泉の代表的な観光資源のひとつである「土湯こけし」。土湯温泉町観光交流センター湯愛舞台には約2000本の東北6県のこけしが展示され、いつでも見学自由。ここでは、こけしの絵づけ体験もでき、館内の職員が絵づけの指導やこけしの歴史などを説明しています。</p>
<p>ポイント3</p>		<p>【コメント】</p> <p>土湯温泉の共同源泉内にある温泉熱を利用したバイナリー発電見学。バイナリー発電の仕組みやこれを始めたきっかけ、そしてこの発電から生まれた収益のまちづくりへの投資などの説明を通じて「学び」と「気づき」を参加者に知ってもらおう体験としている。</p>
<p>ポイント4</p>		<p>【コメント】</p> <p>発電機の冷却水（伏流水100%）と温泉熱で養殖したオニテナガエビで温泉街にある「おららのコミセ」というカフェでエビ釣りを体験でき、その場で焼いて食べることができます。温泉街を散策したいときアイテムのひとつとなっています。</p>
<p>ポイント5</p>		<p>山奥にポツンとある秘湯幕川温泉の水戸屋旅館の露天風呂。白濁色した単純硫黄泉で秘湯マニアから人気度の高い旅館のひとつです。大広間やロビーではWi-Fiも完備され、湯治しながらワーケーションも可能な温泉宿です。入浴されて、幕滝まで散策するといった日帰りコースの方も多いところです。この温泉も山々からの伏流水から生まれたものです。</p>